



## コマンド リファレンス

この付録には、仮想アプライアンスを展開する際に使用するコントローラと MSE コマンドの一部を示します。

この付録は、次の項で構成されています。

- WLC コマンド
- MSE コマンド

### WLC コマンド

- コントローラ設定の構成
- show コマンドによる設定の表示

### コントローラ設定の構成

**config** コマンドを使用して、Cisco Wireless LAN (WLAN) Controller のオプションと設定を構成します。

#### config location

ロケーションベースのシステムを設定するには、**config location** コマンドを指定します。

```
config location {add location [description] | delete location | enable | disable |  
description location description | algorithm {simple | rssi-average} |  
{rssi-half-life | expiry} [client | calibrating-client | tags | rogue-aps] seconds |  
notify-threshold [client | tags | rogue-aps] threshold |  
interface-mapping {add | delete} location wlan_id interface_name |  
plm {client {enable | disable} burst_interval | calibrating {enable | disable} {uniband |  
multiband}}
```

#### 構文の説明

<b>add</b>	ロケーション要素を追加します。
<i>location</i>	ロケーション要素の名前。
<i>description</i>	要素の説明。 <b>add</b> コマンドでは任意です。 <b>description</b> コマンドでは必須です。
<b>delete</b>	ロケーション要素を削除します。

<b>enable</b>	アクセス ポイント ロケーション ベースの上書きをイネーブルにします。
<b>disable</b>	アクセス ポイント ロケーション ベースの上書きをディセーブルにします。
<b>algorithm</b>	(注) <b>config location algorithm</b> コマンドは、使用したり、変更したりしないことをお勧めします。このコマンドは、最適なデフォルト値に設定されています。  平均 RSSI および SNR 値に使用されるアルゴリズムを設定します。
<b>simple</b>	必要とする CPU オーバーヘッドは小さいが精度が低い、高速アルゴリズムを指定します。
<b>rss-average</b>	より正確なアルゴリズムが指定されますが、より多くの CPU オーバーヘッドが必要です。
<b>rss-half-life</b>	(注) <b>config location rss-half-life</b> コマンドを使用したり、変更したりしないことをお勧めします。このコマンドは、最適なデフォルト値に設定されています。  2 つの RSSI 測定値を平均するときに、半減期を設定します。
<b>expiry</b>	(注) <b>config location expiry</b> コマンドを使用したり、変更したりしないことをお勧めします。このコマンドは、最適なデフォルト値に設定されています。  RSSI 値のタイムアウトを設定します。
<b>client</b>	(任意) クライアント デバイスに適用するパラメータを指定します。
<b>calibrating-client</b>	(任意) 調整クライアント デバイスに使用するパラメータを指定します。
<b>tags</b>	(任意) 無線周波数 ID (RFID) タグに適用するパラメータを指定します。
<b>rogue-aps</b>	(任意) 不正なアクセス ポイントに適用するパラメータを指定します。
<i>seconds</i>	秒数を指定します (0、1、2、5、10、20、30、60、90、120、180、300 秒)。
<b>notify-threshold</b>	(注) <b>config location notify-threshold</b> コマンドを使用したり、変更したりしないことをお勧めします。このコマンドは、最適なデフォルト値に設定されています。  RSSI 測定 of NMSP 通知しきい値です。
<i>threshold</i>	しきい値のパラメータ。範囲は 0 ~ 10 dB で、デフォルト値は 0 dB です。
<b>interface-mapping</b>	新規のロケーション、無線 LAN、またはインターフェイス マッピング要素を追加または削除します。
<i>wlan_id</i>	WLAN の識別名。
<i>interface_name</i>	マッピング要素を適用するインターフェイスの名前。
<b>plm</b>	通常のクライアントまたは調整クライアントのパス損失測定 (S60) 要求を指定します。
<b>client</b>	通常の、未調整のクライアントを指定します。
<i>burst_interval</i>	バースト間隔。設定可能な値の範囲は 1 ~ 3600 秒で、デフォルト値は 60 秒です。
<b>calibrating</b>	調整クライアントを指定します。
<b>uniband</b>	関連付けられた 802.11a または 802.11b/g 無線を指定します (ユニバンド)。
<b>multiband</b>	関連付けられた 802.11a/b/g 無線を指定します (マルチバンド)。

## デフォルト

個々の引数およびキーワードのデフォルト値については、「構文の説明」の項を参照してください。

**例** 次に、ロケーションベースのコントローラで RSSI 値および SNR 値を平均する単純なアルゴリズムを指定する例を示します。

```
> config location expiry
> config location expiry client ?
> config location rssi-half-life client ?
```

## show コマンドによる設定の表示

Cisco Wireless LAN Controller のオプションと設定を表示するには、show コマンドを使用します。

### show location

ロケーションシステム情報を表示するには、**show location** コマンドを使用します。

```
show location [detail mac_address | summary]
```

#### 構文の説明

<b>detail</b>	(任意) 詳細なロケーション情報を表示します。
<i>mac_address</i>	クライアントの MAC アドレス。
<b>summary</b>	(任意) ロケーションの要約情報を表示します。

#### デフォルト

なし。

**例** 次に、ロケーションの要約情報を表示する例を示します。

```
> show location summary
Location Summary

Algorithm used:                Average
Client
  RSSI expiry timeout:        5 sec
  Half life:                   0 sec
  Notify Threshold:           0 db
Calibrating Client
  RSSI expiry timeout:        5 sec
  Half life:                   0 sec
Rogue AP
  RSSI expiry timeout:        5 sec
  Half life:                   0 sec
  Notify Threshold:           0 db
RFID Tag
  RSSI expiry timeout:        5 sec
  Half life:                   0 sec
  Notify Threshold:           0 db
```

### show client summary

Cisco Lightweight アクセスポイントにアソシエートされているクライアントの要約を表示するには、**show client summary** コマンドを使用します。

**show client summary****構文の説明**

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト**

なし。

**例**

次に、アクティブなクライアントの要約を表示する例を示します。

```
> show client summary
```

```
Number of Clients..... 24
```

MAC Address	AP Name	Status	WLAN	Auth	Protocol	Port
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Associated	2	Yes	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11b	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1
xx:xx:xx:xx:xx:xx	AP02	Probing	N/A	No	802.11a	1

```
Number of Clients..... 2
```

**show rfid config**

現在の無線周波数 ID (RFID) 構成設定を表示するには、**show rfid config** コマンドを使用します。

**show rfid config****構文の説明**

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト**

なし。

**例**

次に、現在の RFID の設定情報を表示する例を示します。

```
> show rfid config
```

```
RFID Tag Data Collection ..... Enabled
RFID Tag Auto-Timeout ..... Enabled
RFID Client Data Collection ..... Disabled
RFID Data Timeout ..... 200 seconds
```

## show rfid detail

指定されたタグの詳細な無線周波数 ID (RFID) 情報を表示するには、**show rfid detail** コマンドを使用します。

**show rfid detail mac\_address**

### 構文の説明

*mac\_address* RFID タグの MAC アドレス。

### デフォルト

なし。

### 例

次に、RFID の詳細情報を表示する例を示します。

> **show rfid detail 32:21:3a:51:01:02**

```
RFID address..... 00:12:b8:00:20:52
Vendor..... G2
Last Heard..... 51 seconds ago
Packets Received..... 2
Bytes Received..... 324
Cisco Type.....
```

Content Header

=====

```
Version..... 0
Tx Power..... 12 dBm
Channel..... 1
Reg Class..... 12
Burst Length..... 1
```

CCX Payload

=====

```
Last Sequence Control..... 0
Payload length..... 127
Payload Data Hex Dump
```

```
01 09 00 00 00 00 0b 85 52 52 52 02 07 4b ff ff
7f ff ff ff 03 14 00 12 7b 10 48 53 c1 f7 51 4b
50 ba 5b 97 27 80 00 67 00 01 03 05 01 42 34 00
00 03 05 02 42 5c 00 00 03 05 03 42 82 00 00 03
05 04 42 96 00 00 03 05 05 00 00 00 55 03 05 06
42 be 00 00 03 02 07 05 03 12 08 10 00 01 02 03
04 05 06 07 08 09 0a 0b 0c 0d 0e 0f 03 0d 09 03
08 05 07 a8 02 00 10 00 23 b2 4e 03 02 0a 03
```

Nearby AP Statistics:

```
lap1242-2(slot 0, chan 1) 50 seconds ag.... -76 dBm
lap1242(slot 0, chan 1) 50 seconds ago..... -65 dBm
```

## show nmosp subscription

コントローラ上でアクティブになっているネットワーク モビリティ サービス プロトコル (NMSP) サービスを表示するには、**show nmosp subscription** コマンドを使用します。

**show nmosp subscription {summary | detail ip\_addr}**

構文の説明	<b>summary</b>	コントローラがサブスクライブされているすべての NMSP サービスを表示します。
	<b>detail</b>	コントローラがサブスクライブされているすべての NMSP サービスの詳細を表示します。
	<i>ip_addr</i>	特定の IP アドレスでサブスクライブされている NMSP サービスについてのみ詳細を表示します。

デフォルト なし。

例 次に、コントローラがサブスクライブされているすべての NMSP サービスの要約を表示する例を示します。

```
> show nmosp subscription summary
```

```
Mobility Services Subscribed:
```

```
Server IP      Services
-----      -
10.10.10.31    RSSI, Info, Statistics
```

次に、すべての NMSP サービスの詳細を表示する例を示します。

```
> show nmosp subscription detail 10.10.10.31
```

```
Mobility Services Subscribed by 10.10.10.31
```

```
Services      Sub-services
-----      -
RSSI          Mobile Station, Tags,
Info          Mobile Station,
Statistics    Mobile Station, Tags,
```

## MSE コマンド

仮想アプライアンスを展開する際に、次のコマンドを使用してタスクをモニタします。

表 A-1 MSE コマンド

コマンド	説明
getServerInfo	MSE サービスのステータスを判別します。
/etc/init.d/mosed start	クライアント追跡用のコンテキスト認識エンジンを開始します。
/etc/init.d/mosed status	クライアント追跡用のコンテキスト認識エンジンのステータスを判別します。
/etc/init.d/mosed stop	クライアント追跡用のコンテキスト認識エンジンを停止します。
rundiag	診断を実行します。このコマンドを使用して、クライアントのコンテキスト認識エンジンのライセンス ファイルを取得するために必要な MSE UDI 情報を表示できます。